

みどりのこえ



「みどりのこえ」
掲載webページは
こちらから

発行 長野県環境保全研究所

令和8年(2026年)9月28日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)

〒381-0075 長野市北郷 2054-120

TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

2026
秋号
No. 73

人とAIが学び合える 音響モニタリング 支援システム構築を めざして



令和8年7月現在、自然共生サイトの数は全国で610箇所に達しています。多くの方々のネイチャーポジティブ実現に向けた強い意気込みが感じられます。しかし、自然共生サイトが実際に機能しているか確認するためには、そこに生育・生息している生き物を継続的にモニタリングしていく必要があります。加えて、長野県はライチョウ等の冷涼な山岳地域に特徴的な種が多くいますので、気候変動による影響を受けやすい可能性があり、生物季節のモニタリングも重要です。生物季節モニタリングにおいて正確に生き物の出現時期を把握するには、高頻度で調査を行う必要があります。人手や予算に関する課題は盛り沢山です。

国立環境研究所では、こうした課題の解決に向けて、「市民ボランティア」と「AI」という二つの大きな力を結び付けることを目指しており、その一環として長野県環境保全研究所にもご参加いただき、音響モニタリングを支援する仕組みづくりの研究を進めています。具体的には、生物の専門家ではないボランティアの方々が、「鳴き声クイズ」で事前に訓練を受けた上で、実際に野外で録音された音を聞き、どのタイミングでどの種が鳴いているかを記録するAI学習用データの整備作業に参加できるシステムを構築しています。これにより、地域ごとにカスタマイズされた音声種判別AIの成長促進が期待できます。人とAIがともに学ぶ合う良い循環を生み出せればと考えています。

前述のとおり、長野県は生物季節モニタリングの重要地域ですが、その対象には鳥類やセミ類など、鳴き

林内に設置された録音装置。得られた音データは生物の分布や出現時期の根拠となる一方で、人やAIが生き物の鳴き声を学ぶための素材となる。

声によって季節の移ろいを知らせる生き物が数多く含まれます。私たちの取り組みが大いに貢献できることを期待しています。

※本稿で紹介した研究は環境省・(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費(4MF-2504)により実施されています。

文・写真 吉岡 明良 よしおか あきら
国立環境研究所福島地域協働研究拠点
主幹研究員

Contents

【巻頭言】人とAIが学び合える音響モニタリング支援システム構築を めざして(吉岡明良/国立環境研究所 主幹研究員).....	1
【特集】音響モニタリングについて考える.....	2・3
【Report】自然ふれあい講座(セミのぬけがらを探せ!2026)実施報告.....	4
【Report】山と自然のサイエンスカフェ@信州(令和8年度).....	5

【信州自然講座を前に飯山の自然を深掘り!】雪.....	6
ナベクラザゼンソウ.....	7
【長野県生物多様性センター通信】No.2.....	8・9
【信州気候変動適応センター通信】No.9.....	10・11
【お知らせ】令和8年度のイベント予定.....	12